



千代田化工建設

CSR

グループCSR報告書 2011

# 会社概要

## 目次

会社概要	本頁
編集方針	1
トップ対談	2
千代田グループのCSR	6
<b>CSR vision 1</b> ～信頼される企業	8
<b>CSR vision 2</b> ～環境への取組	9
<b>CSR vision 3</b> ～事業を通じた社会への貢献	10
<b>CSR vision 4</b> ～人の尊重	11
<b>CSR vision 5</b> ～公明正大な企業運営	12
海外グループ会社の活動紹介	13

千代田化工建設は、日本および海外において、各種プラント・施設の設計・建設を主要事業とする総合エンジニアリング企業です。

私たちは、エネルギーと環境の調和を図りつつ、持続可能な社会の発展に貢献する企業グループとしてチャレンジします。

(2011年3月31日現在)

**社名** : 千代田化工建設株式会社  
(CHIYODA CORPORATION)

**所在地** : 横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号

**主なオフィス** : 横浜本店(横浜市鶴見区)  
子安オフィス・リサーチパーク(横浜市神奈川区)  
川崎オフィス(川崎市幸区)

**資本金** : 433億96百万円

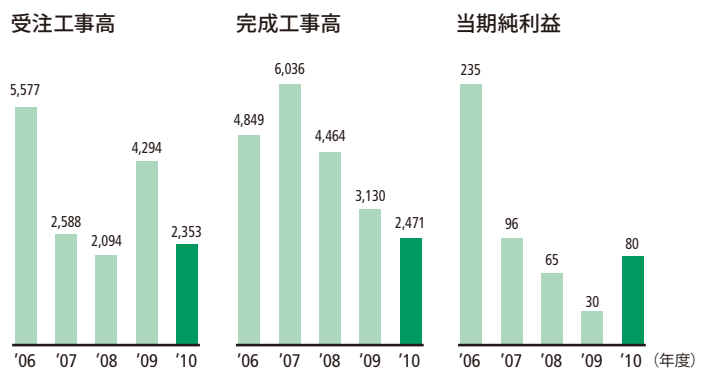
**主な事業内容** : エネルギー、化学、医薬品、バイオ、環境分野などの各種プラント・施設に関するコンサルティング、計画、設計、調達、建設、試運転、運転・保安全管理コンサルティング/トレーニング、研究開発・技術サービス、プロジェクトマネジメント

**グループ会社数** : 国内グループ会社9社  
海外グループ会社12社

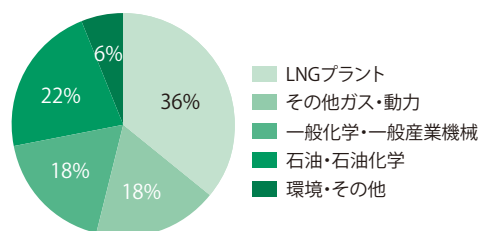
**従業員数** : 4,104名

**URL** : <http://www.chiyoda-corp.com/>

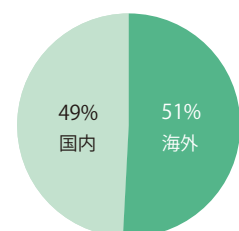
### 連結業績(億円)



### 分野別売上高構成比(2010年度)



### 地域別売上高比率(2010年度)

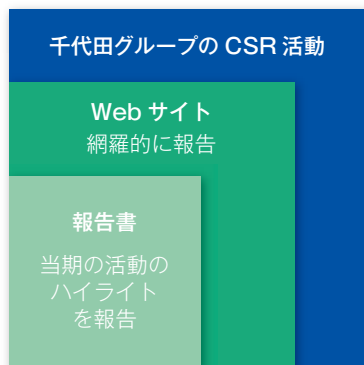


# 編集方針

当社グループのCSR活動は、  
WebサイトとグループCSR報告書で報告しています。

## Webと報告書のすみ分け

Webサイトと報告書の記載内容のすみ分けは右図のとおりです。Webサイトでは、閲覧者の皆様にご理解いただきやすいよう、当社グループのCSRに関する基本情報や活動内容を、従来のステークホルダー別から各CSRビジョンごとに変更し、編集しました。



## Webサイト「CSRへの取り組み」のご案内

当社Webサイト内「CSRへの取り組み」ページでは、報告書の報告範囲以外の取り組みや環境データなどを含め、千代田グループのCSR活動の全容を掲載しています。



このほか、千代田グループのDNAとも呼べる小冊子『21世紀への遺産』や、CSR報告書のバックナンバーなども掲載しています。

<http://www.chiyoda-corp.com/csr/>

千代田化工 CSRへの取り組み

## CSR報告書の構成

報告書では、当期の活動ハイライトに絞ってご報告しています。

「会社概要」「トップ対談(当社社長のメッセージを著名人との対談を通じて紹介しています)」CSRビジョンに沿った活動紹介に加え、今回は特に「海外グループ会社の活動紹介」として、海外における千代田グループの活動を具体的に紹介しています。

## 報告の対象範囲

千代田グループ22社(千代田化工建設および連結子会社・持分法適用関連会社21社)のCSR活動を、報告の対象範囲としています。特定の会社による活動をご紹介する場合は、その旨記載しています。

## 報告の対象期間および発行

報告対象期間： 2010年度  
(2010年4月1日～2011年3月31日)  
発行月： 2011年8月

## ガイドライン

「the Global Reporting Initiative's Guidelines (the new G3 guidelines)」、および「環境報告ガイドライン2007年版」(環境省)を参考にしています。

## 【ご意見・ご感想をお寄せください】

皆様のご意見やご感想を、私たちの活動に反映させたいと思っています。皆様のご意見やご感想は、当社Webサイト内「お問い合わせ」ページのフォームより「CSR関係」をお選びの上、お送りください。

千代田グループのCSR活動を考える

# 経営理念の実践が、持続可能な社会の実現に向けた千代田グループのCSR活動です

ビジネス業界から幅広い支持を得ている企業変革コンサルタントの小笹芳央氏と久保田社長が、千代田グループのCSRについて語り合いました。

久保田  
隆

千代田化工建設(株)  
代表取締役社長

×

小笹  
芳央

(株)リンクアンドモチベーション  
代表取締役社長

## 経営理念の実践がCSR活動そのもの

**小笹** (文中敬称略、以下同) 御社は、経営理念の実践がCSR活動そのものであるとされ、1970年代から環境問題に積極的に取り組まれるなど、今のようにCSRが叫ばれる以前からさまざまな活動を展開されてきていますね。

**久保田** 当社の前身は三菱石油(株)(現 JX日鉱日石エネルギー(株))の工事部ですが、第二次世界大戦で太平洋沿岸のほとんどの製油所が壊滅したため、将来の復興の備えとして、技術部隊を残そうということで設立されました。1948年の創業当時は、「技術による社会への奉仕」を理念に、エンジニアリング力で戦後日本のエネルギーの安定供給体制を実現させ、日本の復興に貢献してきました。

一方、1960年代から1970年代の高度成長期にはエネルギー需要が大幅に伸び、燃料も石炭から石油に転換する中で、公害問題がクローズアップされてきました。何とかしなければということで、石油製品の脱硫装置や発電用ボイラーなどの排煙脱硫装置と、製油所などの工場設備からの排水処理という2つを軸にして、「限りある地球、資源だから、エネルギーと環境の調和」をテーマに技術開発をしながら、その技術によって社会に貢献していこうという流れができたのです。

小笹 芳央(おざさ よしひさ)  
1961年、大阪府生まれ。早稲田大学卒業後、(株)リクルートに入社。人事部では採用活動などに携わる。組織人事コンサルティング室長などを経て独立。2000年、モチベーション(動機づけ)を切り口に開発されたモチベーションエンジニアリングを基幹技術とした(株)リンクアンドモチベーションを設立。現在同社を中核にグループ8社による事業を展開している。最新刊「持っている人」が持っている共通点(幻冬舎新書)ほか著書多数。



## 千代田化工のDNA

**小笹** どの企業も独自のDNAを持っていますが、御社は創業時から明快なDNAをお持ちだったわけですね。DNAに影響する要因として、その企業が①どのぐらいのレンジで物事を捉えているかという時間観、②どこまでを視野に入れて活動しているかという空間観の2つがあります。御社の場合は、プラントの建設から、メンテナンスまで含めると何十年という長期にわたり、顧客と技術的な関わりを続けておられるために、長い時間観で物事を判断され、今は良くて、将来の社会に迷惑をかけることはやめようという、制御が働くのだと思います。空間観では、エネルギーの先の環境までを視野に入れている。そういう時間意識、空間意識のDNAを持っているため、理念をそのまま実践して当たり前のことをやっているんだ、何を今さら騒いでいるのかという意識があたりになるんじゃないでしょうか。

**久保田** そうですね。天然ガスなどのエネルギープラントはガスを掘り当てプラントが完成するまで10年かかり、さらに運転開始から少なくとも30年は稼働しますから全部で半世紀近くになります。当社では、完工保証に加えて一定期間の性能保証まで含めないと資源国の経済発展にはつながらないということで、現在はプラントをつくり上げた後のオペレーションやメンテナンスまでをお手伝いしています。

**小笹** 私がいろいろな会社を見てきて、長いレンジでおつき合いしなければならない事業をしている会社と違って、物を売り切って終わりという事業をしている会社では、利他的意識よりも、自分たちだけ得すれば良いという意識が芽生えがちです。それこそ10年、20年、30年というレンジでのプロジェクトの場合、本当の意味で他者を生かしてこそ自分たちにも利があるという、そういう意識が芽生えるのだろうと感じました。

**久保田** いわば、WIN-WINの関係です。それが当たり前だと思っています。創業時の理念は①人材育成、②技術と信頼、③国際社会への貢献の3つですが、それは今でも変わりません。そしてこれらを実現するために一番重要なのがコミュニケーションであるとの風土が受け

継がれています。当社のプロジェクトは多種多様な技術の組み合わせで、多種多様な人間が一つの目標に向かって長期間一緒にやっていくわけですから、円滑なコミュニケーションが非常に重要です。

**小笹** そういう意味ではコミュニケーションをエンジニアリングするというのも大事ですね。コミュニケーションも構築していくものですから。御社と規模はまったく違いますが、私も会社の経営者として、コミュニケーションの柱、上下の縦柱であったり、左右を貫く横柱であったりをどう構築していくか、その上で人間の体で言えば血液である情報を流していくわけで、コミュニケーションラインという建造物をどうつくっていくかということを常々腐心しています。

フローの表層的な情報ではなく、深層にある普遍的な要素技術や枠組みというもののほうが、長い時間役に立ちますし、フローで流れている表層的な情報は、今日使っても1年後は使えないということになります。そういう普遍性のようなものを意識としてお持ちなのですね。

**久保田** おっしゃるとおり、人間社会では、表面はすぐ変わっていても、根っこのところはそれほど変わっていないことが多く、逆にその都度、新しい目で根っこを見直せば、別の何か生まれるのだろうと思っています。

## プロジェクトを通じた理念の実践

**小笹** 御社はカタールで資源開発と地球環境に大きな貢献をされていますね。プロジェクトの特徴、意義について教えてください。

**久保田** カタールの沖合に世界でも有数のガス田が発見されて開発が始まり、当社グループの同国でのLNGプラントプロジェクトへの関わりは、1990年代初めから継続的に20年近く続いています。現在、世界のLNG生産量の約3分の1にあたる7,700万トンカタールで生産していますが、すべての生産設備のエンジニアリングを手がけてきました。首都ドーハは今でこそ高層ビルが立ち並ぶすばらしい町になりましたが、20年前は



小さな漁村でした。開発が進むにつれ現地の人たちの生活も良くなるし、町もきれいになるのですが、地域社会の発展に寄与するためには何が必要かというのが大きなポイントでした。プロジェクトのピーク時には75,000名にのぼる建設

従事者が集まって来ましたが、そのほとんどがカタール以外の80カ国以上から集まって来たわけです。地元に残すべきだと考え、納めたプラントの保守、点検を行う会社を3年半前に作り、徐々に現地の若いエンジニアをトレーニングしながら根づかせようと取り組んできました。

今回の震災において、カタールは日本の電力会社向けにLNG400万トンをすぐに追加提供すると申し出てくれました。これは、これまでの長いつき合いがあるからこそです。改めて、プラント建設では地元は何を根づかせることができるかを考え、現地コミュニティとの信頼関係を築くのが一番大事だと痛感しました。

また、当社では国内のLNG受入基地の建設でも1960年代より多数の実績を有しており、エネルギーの安定供給にも寄与しています。



世界最大、年産780万トン×2系列のカタールLNGプラント  
(写真提供:カタールガスオペレーティングカンパニーリミテッド)

## 東日本大震災の復興に向けて

**小笹** 今回の東日本大震災からの復旧・復興に際しては、御社の果たす役割は大きいのではないのでしょうか。

**久保田** 最初に、被災者の皆様に、心からお見舞い申し上げます。青森から関東まで、当社グループの顧客は十数社あり、多くの工場をお持ちですが震災で被害を受けました。震災直後に当社技術者が訪問し、設備診断後すぐに復旧支援工事を始めました。現在、「復興支援対策本部」を設置し数十カ所ですべて同時並行して、千代田グループを挙げ、1日も早い復興を願いお手伝いしています。このような復旧・復興支援は長い目で見たら「信頼」という形で結びついていくものと思っています。また、日本のサプライチェーンを結びつける重要さが改めてよくわかります。

**小笹** 今までふだんの生活では目に見えなかったつながりが、震災によって切れたことで顕在化したということですね。逆に言えば御社のような仕事というのは、つながりを自然に意識するような長期レンジと視界の中で活動されているということだと思います。「信頼」という言葉は、そういうつながりを意識されないと出てこない言葉です。

戦後の日本の復興、日本の成長、また世界の成長を支えられてきた御社にとっては、今回の震災に際して、御社が復興に携わっていくというのは当然のことなのです。



わが国初のLNG受入基地 東京瓦斯(株)根岸LNG基地

**久保田** プラントや産業設備の建設、保守、点検、修復に関してはプロフェッショナルだという意識を持っており、それが一番の誇りにもなっていますので、自然の行動なのです。

## 人材育成～強い社員による社会への貢献

**小笹** 御社のDNAの一つに「人材育成」を挙げられています。プロジェクトにおける人材育成はどのようにされているのですか。

**久保田** 私は1987年から8年ほどインドネシアに赴任していました。カリマンタンにあるLNGプラントの増設工事に従事しましたが、最初に受注した際に、インドネシア政府から地場のエンジニアリング企業を育成してほしいという条件がつき、ピーク時には設計、調達、施工のエンジニアなど当社社員40名程にジャカルタに赴任してもらって、進めました。この会社は当時150名規模でしたが、8年後には1,500名規模の会社に成長しました。インドネシア時代での経験を通じて学んだことは、①相手と同じ目線に立つこと、②相手を尊重することの2つを礎に、工事現場では安全を最優先にして進めることでした。

安全は私たちにとってコアであり、すべてのステークホルダーとの信頼を築くベースとして関係者全員に繰り返し教育しています。

**小笹** 現在推進中の2012年度をターゲットとする中期経営計画では、「変革と創造」をテーマに新エネルギー分野など新たな領域の開拓にも挑戦されています。その実現と、さらにその先に向けて、今後の人材育成に関してどのようにお考えですか。

**久保田** 繰り返しになりますが、創業当時から「人材」は当社のキーワードであり、理念の一つとなっています。私は、社員には知力を持った人間になってほしいと話しています。知力というのは、知識と胆力を足し合わせたもので、これを持った強く、活気にあふれた社員になってほしいという意味をこめたメッセージです。

そのためには歴史や古典に親しみ、いろいろな人と

のコミュニケーションを通して、相手の人となりをよく理解できるような知識や力を持ってほしいと願っています。そうすることで、私たちの事業推進に必要な、細心にして大胆な決断ができるような強い人間になってほしい。強い社員になれば、おのずと集合体である会社は強くなりますし、持続可能な社会の発展に貢献できますので、それを目指していきたいと思っています。

**小笹** 私は常々社員には、「i-Company<sup>(注)</sup>」意識を持つてと言っています。会社に属する社員であろうとも、それぞれが自分株式会社であるという意識を持って、それを繁栄、発展させるために、自分の頭で考えて、会社と自分の成長をリンケージさせていくべきだと。主体性、当事者意識を持った人は少なくなっている気がしますので、自分が何とかするんだという気概を持った若い人たちが増えるよう、育てていくべきと思っています。

(注) アイカンパニー。自分自身を一つの株式会社に見立て、その経営者として優良企業に成長させていくという、会社に依存せず、自立的に自らのキャリアを形成していく考え方。

## 未来への挑戦

**小笹** 最後に、変化が激しい時代ですが、今後千代田グループはどのような挑戦をしていくのでしょうか。

**久保田** 人間の生活に必要な社会インフラを恒常的に作りながら、社会の発展に寄与していく、ということに尽きます。各時代の社会要請に沿って経営理念を軸とし、自分たちが貢献できる分野を見据えながら行動するというのがポイントだと思います。

**小笹** 深層構造は変わらず、表層的な活動領域は時代に合わせて変わるといえることですね。

千代田グループのCSRは経営理念に基づいた事業への取り組みそのものであると理解しました。御社の今後の活躍に期待しています。



# 千代田グループのCSR

## 千代田グループ経営理念

総合エンジニアリング企業として、英知を結集し研鑽された技術を駆使して、エネルギーと環境の調和を目指して事業の充実を図り、持続可能な社会の発展に貢献する。

## CSRビジョン

私たち千代田グループは総合エンジニアリング企業として、事業の推進により社会の持続的発展に寄与することはもとより、以下を継続的に推進することにより企業価値を高め、全てのステークホルダーから信頼と共感を得る企業であり続けるよう努めます。

### 1 信頼される企業

世界トップクラスの技術と知見の提供により、お客様をはじめ取引先から信頼され続ける企業となるよう努めます。

### 2 環境への取組

研鑽された技術を駆使して、地球環境と、経済・社会活動の調和を図り、社会にとってかけがえのない企業であり続けるよう努めます。

### 3 事業を通じた社会への貢献

国内・海外のエンジニアリング事業の遂行を通じ、人材育成、技術移転、環境保護等地域社会への貢献に努めます。

### 4 人の尊重

全ての人々の人権を尊重します。同時に従業員の多様性、個性、人格を尊重し、従業員とその家族が誇りを持てるような働きやすく、働きがいのある企業風土作りに努めます。

### 5 公明正大な企業運営

常に高い倫理観に基づいて公正な事業を営み、透明性と安定性を高めるよう努めます。



「千代田グループ経営理念」は、私たちの「果たすべき使命」を示しています。そして、この使命達成のためにグループメンバー全員で「共有すべき価値観」が「CSRビジョン」です。これらの「使命」と「価値観」をもって行動する際に、拠り所とするガイドとして、「千代田グループ行動規範」「千代田グループ役職員行動の手引き」を定めています。

「千代田グループ行動規範」「千代田グループ役職員行動の手引き」につきましては、下記Webサイトをご参照ください。

千代田グループ行動規範

<http://www.chiyoda-corp.com/company/policy/behavior.html>

千代田グループ役職員行動の手引き

<http://www.chiyoda-corp.com/company/policy/compliance.html>

ISO26000 中核課題 対応項目 <sup>(注)</sup>	活動方針	2010年度の活動	具体的な 取り組み
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>質の高いエンジニアリングの提供によりお客様の満足を得る信頼性のあるプラントの提供</li> <li>ベンダー、サブコントラクターなど取引先とのCSR理念の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー安定供給への取り組み</li> <li>顧客開発技術実証化への貢献</li> <li>ワールドクラスの管理基準に準拠した高品質なサービス提供</li> </ul>	P. 8
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷の少ないエネルギー技術、環境保全技術の開発、提供</li> <li>環境保全に寄与する企業活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素社会の実現に向けたLNG設備や、各種の環境保全設備の建設</li> <li>ISO14001に基づく環境活動を通じた業務改善の推進</li> <li>生物多様性保全に向けた活動の推進</li> </ul>	P. 9
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を通じた社会への貢献活動の整備</li> <li>知力、労力の提供による社会貢献活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンジニアリング事業を通じた技術移転、人材育成の展開</li> <li>国内外での社会貢献活動による地域活性化の促進</li> <li>次世代育成教育の推進</li> </ul>	P. 10
②, ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>活力に溢れた組織風土づくりと人材育成の実現</li> <li>「安全はコアバリュー」の全関係者への浸透</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい職場環境の実現</li> <li>安全意識向上への取り組み</li> <li>外国人エンジニアへのサポート体制の充実</li> </ul>	P. 11
①, ⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスの徹底と透明性ある企業活動</li> <li>リスク対応の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育研修活動の拡充</li> <li>出張所、グループ会社との連携(コンプライアンス)</li> <li>外為法改正への対応(安全保障貿易管理)</li> <li>ISO27001の取得促進と継続(情報セキュリティ)</li> </ul>	P. 12

(注) 国際標準化機構で策定した「社会的責任に関するガイダンス (ISO26000)」における中核課題である、①～⑦の7項目については、以前より当社のCSRビジョンの5項目に整理・反映しています。



### エネルギー安定供給への取り組み

わが国はエネルギーの大半を世界各国からの輸入に頼っています。当社は創業以来、石油国家備蓄プロジェクトの大半に参画しています。また、エネルギーと環境の調和を重点に掲げてクリーンエネルギーの導入に努めてきており、数多くのLNG受入基地、LPG受入基地の建設に携わり多くの顧客の信頼を得てきました。特にLNG受入基地については1969年の東京ガス(株)根岸受入基地をはじめ、60件以上の建設実績を有しています。

2011年4月には水島エルエヌジー(株)向けのLNG受入基地2期工事を竣工し、1期工事に引き続き当社の高い施工能力を示しました。現在、3件の大型LNG受入基地を施工中です。

今後とも、CO<sub>2</sub>排出量の少ないクリーンエネルギーとしてLNGの需要はますます高くなると予想されています。当社は、高い設計施工能力を生かし、安全で高品質なLNG受入基地建設に取り組んでいきます。



水島エルエヌジー(株)のLNG受入基地  
(写真提供:水島エルエヌジー(株))

### 顧客開発技術実証化への貢献

当社は、JX日鉱日石エネルギー(株)が経済産業省の公募事業「革新的次世代石油精製等技術開発事業」として高過酷度流動接触分解(HS-FCC<sup>(注)</sup>)プロセス実証化研究装置を同社の水島製油所に設置する建設工事を遂行し、2011年5月に竣工しました。

HS-FCCとは高過酷度(High Severity)流動接触分解(FCC)プロセスのことで、重力に逆らわないダウンフローを採用し反応時間の均一化を図ることで、重質油からプロピレンや高オクタンガソリンなどを高収率で生産できる画期的な技術であり、開発元であるJX日鉱日石エネルギー(株)をはじめ関係者からの期待を集める国産開発の石油精製プロセスです。

本プロジェクトは2000年に(財)国際石油交流センター(JCCP)の技術協力事業としてスタートしました。サウジアラビアにて日産30バレルの小規模実証化研究装置が千代田ベトロスター・リミテッドの協力により建設され、JX日鉱日石エネルギー(株)が、キングファハド石油鉱物資源大学、サウジアラビア国営石油会社とともに、2003年より2年間にわたり実証運転を実施しました。その後、(財)石油産業活性化センター(JPEC)の技術開発事業として、2007年より日産3,000バレルの大型実証化研究装置の設計が開始され、この度水島製油所にて装置が完成し、JX日鉱日石エネルギー(株)により本格的な研究運転が始まりました。

当社はこのプロジェクトを通じて、新方式のプロセス装置の設計や製作におけるさまざまな課題を克服するとともに、現場工事でも工夫を重ねて工期短縮と工事安全を達成し、お客様の新技術の実証装置の実現に寄与しました。

当社は今後も引き続きお客様の新技術の確立に貢献していきます。

(注)HS-FCC: High Severity Fluid Catalytic Cracking



JX日鉱日石エネルギー(株)のHS-FCCプラント  
(写真提供:JX日鉱日石エネルギー(株))

### Voice お客様の声

千代田は、常にワールドクラスの管理基準に準拠したEPCC(Engineering Procurement and Construction Contractor)としてPTTケミカルグループにサービスを提供しています。

PTTグループは、経営や業務を優れたものにするだけでなく、環境保全や社会貢献にも配慮し、国連グローバル・コンパクトへも参加するなど、国際的な責任を担う企業に向けて大きなステップを踏み出しました。当社グループはさらなるCSR活動強化のために、千代田が既に社会責任投資(SRI)の世界的な評価機関であるDow Jones Sustainability Indexes や FTSE4Goodに選定されているように、これらの機関から認められるよう、努力しています。

PTT Chemical Public Company Limited, Thailand  
Executive Vice President,  
Operational Excellence  
Mr. Jiamsak Nantananate





<http://www.chiyoda-corp.com/csr/kankyo/>

千代田化工 ビジョン 2

検索

より詳細な活動内容のご報告は当社Webサイトに掲載しています。

### 生物多様性への取り組み

#### フィリピンの現場から

フィリピン共和国、ミンダナオ島のニッケル製錬プラント建設工事では、動植物の生息状態の事前調査を実施し生態系保全、種の保全に配慮しています。年4回の環境モニタリングを実施するとともに、山の斜面の植林・植栽、マングローブの保全などの施策を、顧客の方針を遵守しながら、JVとして、協力して工事を進めています。



植林・植栽された山の斜面

#### マレーシアの現場から

マレーシア、サラワク島のシリコン製造プラント建設工事では、敷地内で発生した雨水による濁り水が直接近隣の海へ流れないように、沈砂池を設置しています。また現場周辺の河川の水質、騒音、大気汚染などの環境モニタリングを3カ月ご



とに実施して、敷地周辺の生態系への環境負荷低減に努めています。

現場に設置した沈砂池

#### パプアニューギニアの現場から

パプアニューギニアにおけるLNGプラント建設工事では、現地政府の環境影響評価制度の遵守や環境モニタリングの定期的実施により、生態系保全に努めています。工事においては自然な植生環境を維持し、また周辺河川や海を汚染しないよう沈殿池などの設置による環境保全にも心がけ、工事中の廃棄物は集積・リサイクル利用するなど資源保護にも努めています。



定期的に行っている環境モニタリング

#### 環境に配慮した業務の遂行

当社の主要業務であるプラントや諸施設の設計・調達・建設業務の実施にあたっては、顧客への環境提案を積極的に行うことにより、間接的寄与ではあるものの、社員の生物多様性保全に対する意識が向上するよう努めています。2010年度は263件の提案を行いました。

### 当社の環境技術紹介

### i Water™ システム

今後ますます厳しくなる水質汚濁と水不足へのソリューションとして、次世代型水循環システム「i Water™ システム」を開発しました。これは、石油プラントなどからの工業排水を浄化・再生し、冷却水給水やボイラ給水として再利用する循環システムであり、再生水の量・質は、利用先の要求に合わせる事が可能です。

このシステムに関する実績の一つとして、2011年3月にサウジアラビアのジュベール工業地区における電気・水供給会社マラフィック社より受注した「工業団地内の工業排水の水処理・再利用に関するフィージビリティ」業務があります。この業務ではパイロットテストを通して「i Water™ システム」の設計・提案を行うことで、工業団地における水環境への貢献を目指しています。

今後水資源の有効利用策として「i Water™ システム」を積極的に展開していきます。

※当社の環境技術の詳細は当社Webサイトの「環境技術」をご覧ください。

<http://www.chiyoda-corp.com/technology/environment/>





[http://www.chiyoda-corp.com/csr/syakai\\_kouken/](http://www.chiyoda-corp.com/csr/syakai_kouken/)

千代田化工 ビジョン3

検索

より詳細な活動内容のご報告は当社Webサイトに掲載しています。

### カタール半島における海岸清掃

2011年3月6日、カタール環境庁の協力を得て、カタール半島の北部にあるアルダロフ海岸にて、千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシーの池田社長以下約150名の社員が海岸清掃を行い、2時間で2トンのゴミを回収しました。

この活動は3月16日付のGulf Timesにも紹介されました。



### 宇宙・地球環境と生物に関する理科実験教室

2011年2月、千代田アドバンスド・ソリューションズでは千葉県の小学校2校にて、小学5～6年生を対象に宇宙の一端に触れる授業を行いました。真空と重力に関する実験を通して地球環境と生物の関係を児童に考えてもらい、また、宇宙での生活の工夫を紹介し、好評を博しました。



授業を熱心に聴く生徒たち

### 地域の小学生を招いた職場見学会

千代田計装では、2009年度に引き続き、千葉県市原市立千種小学校の6年生16名を迎えて、キャリア教育の一環として職場見学会を開催しました。千代田グループの業務説明、3D-CADおよびタッチパネルを使った制御システムの実演を行い、子供たちに将来の夢や職場観を持ってもらうことができました。



タッチパネルを操作する子供たち

### 大学へ講師を派遣し、地元の発展に貢献

千代田フィリピン・コーポレーション(CPh)では社会貢献活動の一環として、フィリピンの大学にて開催されるセミナーへCPh社員を講師として派遣しています。2010年度は、Pamantasan ng Lungsod ng Maynila(マニラ市立大学)にて、LNGについての講義を化学工学科の学生約25名を対象に行いました。

学校では学ぶことができない技術の話や、仕事を進める上でのグループ管理など、学生にとっては新鮮な内容だったこともあり、好評でした。

今後も講師派遣を継続し、人材育成を通じてフィリピンの発展に微力ながら貢献したいと考えています。



マニラ市立大学で講義後に関係者と

### 2010年度に実施したその他の活動事例

- 大学教育への協力(講師派遣)：11名
- 教員の企業研修：12名
- インターンシップ学生の研修：35名
- TABLE FOR TWO：延べ2,055食
- クリーンキャンペーン(清掃活動)：実施回数3回、参加者延べ189名



### 外国人エンジニアへのサポート

2011年3月の東日本大震災は、日本に滞在していた外国人エンジニアに大きな衝撃を与えました。日本に残り自分の職務を全うしようと頑張るエンジニアに対し、食糧の提供、計画停電や列車運行情報の提供などにより、安定した安全な生活に戻れるよう支援しました。

また、エンジニア自ら居住地での防災訓練に参加し、避難方法などについて地域住民との情報共有を積極的に図りました。



防災訓練の様子

### 安全文化の確立

安全文化の確立のためには、日常生活において各自が危険への感度を高め、業務における事故を減らすことが必要です。また、小さな事故の芽を摘むことが大きな事故を防ぐことにもつながります。2010年度は、日常生活で遭遇するさまざまなリスクを題材に事故の危険性を学び、その回避方法を考える「基礎的危険教育」を社長以下全役職員に実施しました。受講した従業員の99%がリスクに対する関心や感性を高めるのに有効と回答しており、安全文化の確立に向けて、今後も継続して実施していきます。

### 短時間勤務および休職制度の充実

2010年6月の「育児・介護休業法改正」に伴い、従来の制度に加え下記制度を導入しました。

#### 短時間勤務制度の新設

育児や介護に利用できる2つの短時間勤務制度を新設しました。

- ①1日の所定労働時間を昼休みを除き6時間とする。
- ②フレックスタイム制度を利用した月の所定労働時間は「当月の所定勤務日数x6時間」とする。

育児では子供が小学校3年生を修了するまで、介護では要介護対象家族1名につき通算1年を限度として利用できます。

#### 育児および介護休職制度

養育する子の満1歳半の誕生日までの期間を限度に、また、要介護者1名につき通算1年を限度として休職することが可能です。

なお、今回の制度の充実に合わせて、就業規則の中に散在していたわかりにくかった諸規定を「育児・介護支援規定」として一つにまとめ、従業員が参照しやすくしました。

### Voice 従業員の声

本社での研修では、いつでも、誰からでも、さまざまなことについて学ぶ機会を与えられ、熱心で知識豊富なトレーナーの方々から新しい技術を習得できた素晴らしい4カ月間を過ごすことができました。彼らはガイドやアドバイスが必要な時は、いつもそばにいてくれました。また技術的な知識習得のほかにも、社内の神輿イベントにも参加して日本文化も学びました。初めての日本滞在は短期間でしたが、暖かく迎えられ、親切にお世話いただき、実りある経験となりました。

千代田マレーシア・  
センドリアン・ベルハッダ  
Ms. Loh Pow Ee





<http://www.chiyoda-corp.com/csr/compliance/>

千代田化工 ビジョン5



より詳細な活動内容のご報告は当社Webサイトに掲載しています。

### コンプライアンスへの取り組み

出張所（建設現場）およびグループ会社との連携強化・拡充に取り組みました。特に出張所の総責任者である所長には赴任前に個別研修を実施し、業務の最前線でのリスク対応力の強化を図るとともに、課題や顧客動向のフィードバックを全社的に展開しました。また組織における管理職の役割の重要性に鑑み、すべてのライン管理職に対し、コンプライアンス意識の自己チェックをeラーニング方式で実施し、所属長としての責任の再確認を促しました。

#### 「相談・通報制度」通報実績

職場環境の改善	4件
就業規則の遵守	4件
注意喚起の要望	0件
その他	1件



海外プロジェクト関係者を対象とした弁護士による「海外腐敗行為防止」講習会

### 安全保障貿易管理への取り組み

外国為替および外国貿易法（外為法）の大幅改正に伴い、コンプライアンスプログラム（CP）を改訂し、経済産業省へ届け出ました。社内においては、CPに基づく定期監査の実施と一般社員への研修、各本部で安全保障貿易管理を担当するコーディネータ研修を継続し、CP遵守を図っています。

### 情報セキュリティへの取り組み



ISMSルールの徹底のため、2月と9月を「情報セキュリティチェック月間」と定め、各種研修や注意喚起を実施しました。またメール誤送信防止ツールを全社に導入し、さらなる情報管理の徹底を図りました。ISO27001認証は、千代田フィリピン・コーポレーション（CPh）が加わり、グループ全体では5社の取得となりました。

CPhのISO27001認証書

### 2010年度に実施した研修

公明正大な企業経営の根幹は「人」。2010年度は教育の拡充に注力しました。

#### コンプライアンス関連

コンプライアンスeラーニング	2,100名
管理職コンプライアンス対応自己チェック	176名
執行役員コンプライアンス研修	28名
海外グループ会社社長コンプライアンス研修	7名
「建設業法」講習会	54名
「海外腐敗行為防止」講習会	37名
「相談・通報制度」受付担当者研修	19名
出張所長赴任前研修	23回 40名
全社通達（各種法令）	7回

#### 安全保障貿易管理関連

安全保障貿易管理一般研修	5回 72名
輸出管理コーディネータ研修	3名
全社通達（輸出管理通達）	6回

#### 情報セキュリティ関連

情報セキュリティeラーニング	3回 3,200名
情報セキュリティ研修	2回 160名
全社通達（情報セキュリティチェック月間）	2回

#### CSR総合研修

新入社員CSR総合研修	78名
キャリア採用者CSR総合研修	4回 42名
専任職CSR総合研修	8名

# 海外グループ会社の活動紹介

## 社員の長所を伸ばす表彰制度

エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(L&TC)  
<http://www.lntchiyoda.com/>



L&TCでは2007年より、業務処理、自己研鑽、社会貢献、専門性といったさまざまな面で社員の長所を伸ばすことを目的とし、また、人材育成や組織の風土・文化に根づかせるため、ICONS<sup>(注)</sup>という表彰制度を導入しています。ICONSでは、四半期ごとにチームリーダーが研修生から副部長層までの全従業員を対象に候補者を推薦し、事業開発力、顧客対応力、顧客満足達成度、業務遂行力、目標達成度、社内コミュニケーション、チームワーク力などさまざまなポイントを評価し、最高経営委員会で受賞者を決定し、受賞者にはトロフィーと賞状などが授与されます。これまで257名が選出されました。(注)ICONS: Immense Contribution of Noteworthy Significance

## 地域社会への支援

千代田フィリピン・コーポレーション(CPh)  
<http://www.chiyodaphil.com.ph/>



CPhでは、物資の支援と利用可能な資源活用を通じ、地域社会にとって有益で、目に見える効果を挙げる取り組みを行っています。2011年3月には、新しいオフィスで使わなくなった棚や机、掲示板などをマンダロン市にあるHighway Hills小学校に寄付しました。

## 「人間尊重」のマルチナショナルカンパニー

千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(CAEL)  
<http://www.cael.com.qa/>

CAELでは、26の異なる国籍の従業員とともに「Help Each Other」「Respect Each Other」をモットーとした経営を行っています。世界中の多様な文化・価値観と千代田の優れたDNAを融合させながら、新しいビジネスモデルの構築に取り組んでいます。



## 環境に貢献するプロジェクトを推進

千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(CSL)  
<http://www.chiyoda.com.sg/>

CSLで行っているSCOT/BUGISプロジェクト(SBG)は、プラントの基本設計業務が終わり、現在は詳細エンジニアリング段階に入っています。このプロジェクトは、燃料油を脱硫し、環境負荷の少ない燃料を生産するものです。プロジェクトの完成により、従来の精製工程と比べ、より低硫黄含有量の輸送用燃料を提供することができるようになります。CSLはこのような環境プロジェクトに深く携われることを誇りに思っています。



## ファミリーデーの開催で社会に貢献

CSLが開催するファミリーデーでは、来場者がお金を払って参加するボールゲーム“The Dunking Machine”を行い、集まったお金をClub Rainbowというシンガポールのチャリティ団体へ寄付しています。この団体はさまざまな持病や生命を脅かすような病気に苦しむ子供や若者たちを救う活動を行っています。CSLでは従業員とその家族が楽しめる、思い出に残るイベントを実施しながら社会に貢献しています。



## イベント企画で社会に貢献

千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッタ(CMSB)  
<http://www.chiyoda.com.my/>

CMSBでは毎年、CMSBレクリエーションクラブを通じ、オフィスビルの1階を利用して献血キャンペーンを展開しています。ビル管理者の全面的な協力や支援もあり、従業員、通行人や周辺エリアで働く人々の反響に元気づけられています。常に血液が不足している状況の中で、民間企業の協力が、いくつもの命を救うことに役立っています。




# 私たちはグループの力を集結して事業を進めています


主要なグループ会社（2011年3月31日現在、千代田化工建設の連結子会社・持分法適用関連会社）


## 〈国内グループ会社〉


 千代田工商株式会社  
各種産業用機械設備の設計・建設・メンテナンス、保険業務等


 千代田計装株式会社  
電気・計装・制御・FAシステムの設計・調達・施工及び保守


 千代田テクノエース株式会社  
医薬品・石油施設の土木建築関連工事のコンサルティング、  
企画、設計、施工、試運転等


 ChAS 千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社  
各種解析技術、産業用機械設備の改善、コンピュータ応用システム、  
宇宙環境利用等に関するコンサルティング及びエンジニアリング

 アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社  
財務・会計・税務に関する総合コンサルティング及び業務受託等

 アロー・ワールド・インターナショナル株式会社  
旅行業、航空運送、資材輸出等

 千代田ユーテック株式会社  
各種産業用機械設備・地域開発等の総合コンサルティング、  
ISO認証維持のための審査業務、人材派遣業

 ITエンジニアリング株式会社  
総合ITシステムのコンサルティング・開発・運用、  
ERP・Web系システムエンジニアリング等

 アロー・ヒューマンリソース株式会社  
人材派遣業、人材斡旋コンサルティング、教育研修等



## 〈海外グループ会社〉

- 各種産業用機械設備の設計等  
千代田フィリピン・コーポレーション(フィリピン)  
エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(インド)
- 各種産業用機械設備の設計・建設等  
千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(シンガポール)  
千代田インターナショナル・コーポレーション(アメリカ)  
ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア(インドネシア)  
千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド(ミャンマー)  
千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ(マレーシア)  
千代田タイランド・リミテッド(タイ)  
千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(カタール)  
千代田ナイジェリア・リミテッド(ナイジェリア)  
千代田サラワク・センドリアン・ベルハッダ(マレーシア)  
千代田ペトロスター・リミテッド(サウジアラビア)

CSRへの取り組みに対する  
社会的責任投資(SRI)評価機関からの評価  
(2011年8月現在)



FTSE社(英国)の社会的責任  
投資指標に組み込まれています。



「DJSI Asia Pacific」の構成銘柄として採用されています。



〒230-8601 横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号  
本報告書に関するお問い合わせ先：  
CSR総室(TEL 045-506-7535 FAX 045-506-6857  
E-mail csr@ykh.chiyoda.co.jp)